

P38

こんにゃくセラミド摂食がアトピー性皮膚炎の肌状態に及ぼす影響

The effects of oral intake of Konjac-Ceramide on dry skin of Atopic Dermatitis

○宮西 健次¹⁾, 塩野 菜美¹⁾, 白井 宏政¹⁾, 木俣 肇²⁾

1) ユニチカ株式会社中央研究所, 2) 宇治武田病院アレルギー科

We investigated the effects of oral intake of Konjac-Ceramide containing glucosylceramides richly on dry skin of patients with Atopic Dermatitis (N=14). All patients took soft capsules which were designed to contain glucosylceramides 1.8mg per day, and they continued to take capsules for 8 weeks. Before and after 2, 4, and 8 weeks of intake of soft capsules, we measured water content (Corneometer), TEWL values (Tewameter) and elasticity (Vinustron). Among all parameters tested, TEWL values were significantly decreased ($p<0.05$).

【目的】

こんにゃくセラミドは、こんにゃく芋由来のグルコシルセラミドを豊富に含む食品素材として、すでに、健常人を対象とした二重盲検の摂食試験において、容量依存的に肌からの水分蒸散量 (TEWL 値) の低下を有意にもたらしことが示されている¹⁾。今回は対象をアトピー性皮膚炎患者とし、肌状態への影響を調べた。また、自覚症状等についてのアンケート調査も行ったので、併せて報告する。

【方法】

被験者は、インフォームドコンセントの得られた、軽微～中度のアトピー性皮膚炎患者計 14 名 (女性 9 名, 男性 5 名) で、すべての被験者に、グルコシルセラミドとして 1.8mg/日摂取してもらう単一群試験とした。摂食期間は 8 週間とし、摂食開始前, 摂食開始 2, 4, 8 週間後の計 4 回, 肌状態の測定と, アンケート調査を行った。なお, 肌状態の測定項目は, 水分率 (Corneometer), 水分蒸散量 (Tewameter), 柔軟性 (Vinustron) で, 恒温恒湿室 (20°C, 50%) で, 45 分間安静待機後に測定を行った。

【結果と考察】

測定結果を, 開始前の測定値を基準に, 特に層別を考慮せず有意差検定 (student's t 検定) を試みたところ, 水分蒸散量で有意な低下 ($p<0.05$) が見られた。他に有意な変化を示す項目はなかったが, 健常人同様, アトピー性皮膚炎の患者でも, こんにゃくセラミドの継続摂取により, 肌からの水分蒸散量の低下, すなわちバリア性の向上が確認できた。また, アンケート結果でも, 肌のきめが整い, 塗布薬がよく伸びるようになり, 薬の使用量が減ったと実感できたという意見があった。

【結言】

こんにゃくセラミド摂食により, アトピー性皮膚炎患者の肌において, 水分蒸散量の低下が有意に見られた。アトピー性皮膚炎治療の補完として, 肌バリア性に特に関与する, こんにゃくセラミド摂食は有効であると考えられる。

1) 向井 克之, バイオインダストリー, 第 19 巻第 8 号, pp16-25 (2002)